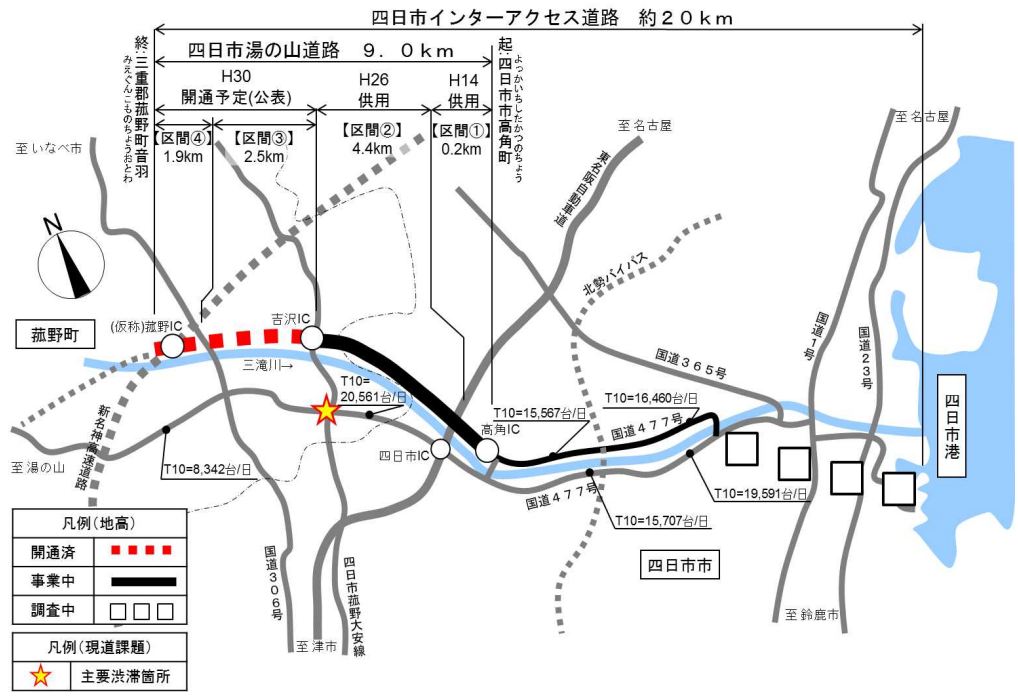


再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 地域高規格道路 四日市インターアクセス道路 一般国道477号四日市湯の山道路	事業区分 一般国道	事業主体 三重県		
起終点 自：三重県四日市市高角町 至：三重県三重郡菟野町音羽		延長 9.0km		
事業概要 一般国道477号四日市湯の山道路線は、地域高規格道路 四日市インターアクセス道路の一部を構成する道路であり、四日市市街地や東名阪自動車道と新名神高速道路との連絡強化、現道の交通混雑の緩和、地域の活性化等を目的とし、四日市市高角町～菟野町音羽までの延長約9.0kmを整備する。				
H9年度事業化	H6、H7年度都市計画決定	H9年度用地着手	H10年度工事着手	
全体事業費 約500億円	事業進捗率 約63%	供用済延長 4.6km	計画交通量 13,600台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 5.3	総費用 (残事業)/事業全体 133/560億円 (事業費：130/557億円) (維持管理費：3.0/3.0億円)	総便益 (残事業)/事業全体 705/705億円 (走行時間短縮便益：541/541億円) (走行経費減少便益：113/113億円) (交通事故減少便益：51/51億円)	基準年 平成26年
感度分析の結果				
(事業全体) 交通量 : B/C=1.1~1.4(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.2~1.3(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.2~1.3(事業期間±20%)		(残事業) 交通量 : B/C=4.8~5.8(交通量 ±10%) 事業費 : B/C=4.8~5.9(事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=5.1~5.5(事業期間±20%)		
事業の効果等				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 四日市市街地から新名神高速道路菟野ICへのアクセスが向上することで、地域の社会経済活動の活性化および地域間連携の強化が図られる ・ 四日市市から菟野町を結ぶ東西方向の新たなバイパスが整備されることで、現道の渋滞緩和が図られる ・ 四日市市から菟野町を結ぶ東西方向の新たなバイパスが整備されることで、南北に走る東名阪自動車道や新名神高速道路などと一体的な緊急輸送網を構成し、広域的な災害復旧活動に貢献する ・ 関西圏・中京圏から観光地（菟野町湯の山温泉）へのアクセス向上により、菟野地域の観光支援が期待される 				
関係する地方公共団体等の意見				
新名神高速道路の整備とともに、渋滞緩和、地域ネットワークの構築、物流の効率化などの面から、四日市湯の山道路の早期供用開始が強く望まれている。				
事業評価監視委員会の意見				
事業継続を妥当と認める				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等				
並走する新名神高速道路四日市北JCT～亀山西JCT間が、平成30年度までの全線供用に向け、着実に整備が進められており、当事業の必要性に変化はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等				
用地取得率約89%、事業進捗率約63%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等				
残る用地の取得を継続しており、平成30年度の新名神高速道路との同時供用に向け事業を進める。				
施設の構造や工法の変更等				
橋梁に耐候性鋼材の使用や草刈りに要する維持管理費を抑制するための防草対策を実施し、コスト削減に努めている。				
対応方針		事業継続		
対応方針決定の理由				
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。